

若者の感性で犯罪抑止

1月7日、区役所ロビーでは、阿佐ヶ谷美術専門学校の生徒が制作したポスターなど28点の作品を展示しています。この作品は、杉並区が特に力を入れて取り組んでいる振り込め詐欺被害などの犯罪抑止を呼びかけるものです。どの作品も、若者の感性がきらりと光るものばかりで、多くの来庁者が足を止めて見入っていました。作品展は、10日までです。

杉並区では、平成15年度から警視庁のOB・OGによる安全パトロール隊を編成し、区内パトロールの実施や街角防犯カメラを設置するほか、区内3警察署や地域住民との連携と協力を受け防犯対策に努めてきました。こうしたことで、空き巣の被害件数は、平成14年の1,711件をピークに、平成29年には108件と大幅に減少しています。しかし、振り込め詐欺については、依然として多くの被害が報告されています。杉並区内の平成29年の発生件数は174件で、世田谷区、足立区、練馬区に次いで、23区で4番目に多い状況となっています。

阿佐ヶ谷美術専門学校は、1945年に阿佐ヶ谷洋画研究所として設立。73年の歴史を持ち、多くの卒業生が活躍し、「アサビ」の愛称で呼ばれています。そのアサビと杉並区は、平成29年度から連携して、防犯啓発ポスターの制作に取り組んでいます。



今年度も、4月に区の担当者が、阿佐ヶ谷美術専門学校に出向き、杉並区の犯罪発生状況や区のこれまでの取り組みを、視覚デザイン科の生徒の皆さんに伝えました。こうした課題などを広く区民に伝え、振り込め詐欺などの犯罪被害から一人でも救うのが、今回の作品制作の目的です。

28点の作品の中から、「振り込め詐欺」「自転車盗難」「空き巣」の3つのカテゴリーより、それぞれ1点のポスターデザインを選び、今後、区内の掲示板やイベント会場で使用していきます。しかし、3点の作品以外も完成度が高く、それぞれの視点でメッセージをより多くの区民にも伝えるため、区役所での展示会を開くことにしました。今日7日は、その展示会の初日でしたが、区役所への来庁者が足を止め、1点1点見入る姿がありました。展示会は、10日までとなっています。

【問い合わせ先】

危機管理室地域安全担当 電話 3 3 1 2 - 2 1 1 1 内線 1 5 8 2